

研究テーマ：英語への苦手意識を減らすための工夫

所属 高知東高等学校

氏名 崎本 貴子

R G S H 4

1. 研究の背景

総合学科の本校では、生徒が自分の進路に合わせた科目を選択していますが、国語、数学、英語については各学年で必ず1科目は選択をするように指導しています。英語は2年次で「英語」を全員が選択するように指導しています。

A Bユニット「英語 c」は、A Bユニットで「英語」を選択した73名を習熟度別で3講座に分けた中で、英語が苦手な生徒を集めた講座です。英語に対する苦手意識が強く、「英語を勉強しても無理」という声も聞こえました。やる前からあきらめている生徒が多く、この状況を少しでも改善できればと今回のテーマを設定しました。

2. リサーチクエスチョン

英語への苦手意識を減らすにはどうすればよいのか

3. 予備調査

授業態度は悪くはないが、自分で考えることをせず、板書を写すだけ、答えを書き留めるだけの生徒が多い。英語を嫌いな理由として「難しいから、分からないから。」が50%を締めており、英語が嫌いになった時期としては「中学校から」が61%もいる。

予備調査として「英語」の教科書より抜粋した英文(355words)でwpmを計ったところ、7月の段階で平均110.5wpmとかなり良い結果が出ました。ただし実際には分からない単語が多すぎて途中で読むことを止めた生徒、とりあえず意味も理解せずに読んだ生徒などが多く、正しい結果ではないと思います。本当に読んでいたと思われる生徒の平均は66.5wpmでした。

4. 仮説の設定

仮説1

分からない事柄を学習し、分かるようになれば「やっても無駄」という気持ちはなくなるのではないかと。

仮説2

内容を理解できる簡単な英文を数多く読むことで、英語への苦手意識が薄まるのではないかと。

実践の方法

基本的な文法事項(中学校既習事項)を復習する時間を授業中に取る。

中学校の教科書や「英語」に出ている程度の英文を読む時間を授業中に取る。

5. 計画の実践

授業の最初の 20 分間程を使い、毎時間、中学 1 年で習う事柄の復習プリントを学習。個人のファイルを作り、プリントは毎時間ファイルに挟んで保存、提出するようにしました。ファイル表紙の裏面にはアルファベット表、ローマ字表を貼り、困った時にはいつでも見られるように工夫しました。また、裏表紙の裏面には速読プリント記録用紙を貼り、速読を実施するたびに自分の結果を記入、自分の進歩が分かるようにしました。

6. 実践の結果

10 月にアンケートを取った結果、中学校の復習を授業中にするようになって「英語が分かるようになってきた(47%)」、「英語を覚えやすくなった(10.5%)」、「英文が読めるようになった(5.2%)」などの意見が出てきました。「これからも授業中に復習プリントをやって欲しい(68.4%)」という意見も多数いました。

また、再度 wpm を計ると、クラス平均 62.4wpm という結果でした。

7. 結果の検証

復習プリントをやるようになって、時にプリントをしない時間があると、生徒の側から「今日はプリントないが?」という声があがるようになりました。今までは英語の授業を聞いても分からないと思っていた生徒たちが、自分にも分かると思い始めたようです。wpm の結果は数値が低くなっていますが、今回は取り組もうとさえしなかった生徒たちが、今回は真剣に取り組んだ結果の数値の下降だと思います。

速読については、時間を設定して英文を読み、後の質問に答える活動を 2 回実施しました。結果は良好で、1 回目は 63.1%、2 回目は 57.8% の生徒が後の質問に全て正解していました。このことにより、かなり自信がついたようです。

8. 成果と今後の課題

今回の活動を通して、生徒たちの英語への苦手意識がかなり減った気がします。授業への取り組みも、板書や正解を写すだけというものから、自分で考えようとするようになってきました。生徒が分かっているのとぼやくのではなく、それならば生徒が分かる所まで戻って授業を組み立てることが大切だと分かりました。今後は前向きに取り組むようになった生徒たちに、さらに英語の楽しさを知ってもらえる授業を目指したいと思います。

参考文献

『総合的な学習に適したポートフォリオ 学習と評価』 小田 勝己 著 (学事出版)

『アクションリサーチのすすめ—新しい英語授業研究—』 佐野 正之 編著 (大修館書店)

